

# 都島だより

発行責任者

岩井 浩一

〒343-0807  
埼玉県越谷市赤山町4-9-1 B-712  
TEL 048-964-3176



関東浪速工業会 会報 2007年(平成19年)11月 第36号

事務局 馬江 治喜

〒234-0056  
横浜市港南区野庭町696-6  
TEL045-841-8885  
E-mail umae2@m3.dion.ne.jp

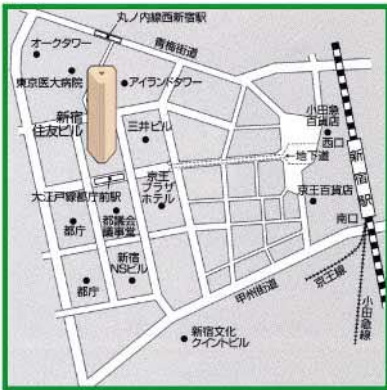
題字デザイン 岡田宏三

NEWS36号

関東浪速工業会・現在会員数◆合計554名

◆M・機械117名、ME・機械電気23名 ◆A・建築101名 ◆E・電気・電子工学174名 ◆C・土木・都市工学50名 ◆C I・工業化学・理数57名 ◆L・普通12名 ◆工専20名

## 新宿住友ビル47階 東京住友クラブ



交通のごあんない  
JR[新宿駅]より 徒歩8分  
東京メトロ丸ノ内線[西新宿駅]より 徒歩3分  
都営地下鉄大江戸線[都庁前駅] 直上

にて開催

2008.1.30

## 平成19年度 総会のご案内

本年度は交通の便利な新宿にて総会・懇親会を行う**新企画**といたしました。同級生等お誘い合わせの上多数のご参加をお待ちしております!



昨年度の総会

### ★見学施設ごあんない

新宿住友ビル48階には「平和祈念展示資料館」があります。総会の前にお時間のある方は見学をお勧めします。 入場無料  
開館時間 午前9時30分～午後5時30分  
(ただし入館は午後5時まで)  
HPアドレス <http://www.heiwa.go.jp/>



平和祈念展示資料館

申込締切は平成20年1月10日です

※Eメール受信の方はメール送信で出欠をお知らせください。

抽選会も開催

- 親睦会費 8,000円(女性会員は4,000円)
  - 平成年度卒業会員は**無料!**
  - 同封の返信はがきに出欠を「記入の上必ず投函して下さい。」
  - 日時 平成20年1月30日(水) 18時～20時30分
  - 場所 東京住友クラブ
- TEL:03-33344-6285  
新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル47階

関東浪速工業会、今年度の総会を左記の通り開催いたします。ご多忙中のことと思いますが、万障お繰り合わせの上ぜひご参集ください。



クリアビューゴルフクラブにて

第24回ゴルフコンペが平成19年4月26日(木)に野田市のクリアビューゴルフクラブにて開催されました。当日は好天に恵まれたスタートでした。途中、突如の雷雨に約15分ほど中断しましたが、事故も無く、全員無事にホールアウトできました。コースは充分に距離があり、芝目の強い高麗グリーンにハイスコアは出ませんでした。楽しんで一日になったのではないのでしょうか。参加者は12名で、優勝者は細川氏でした。

## 第二十四回 関東浪速工業会 ゴルフコンペ報告

E36 竹村 繁幸

### 昨年度の総会御出席者

来賓	識谷皓夫 理事長 秋山謙三 学校長			
機械科	M26 上田英雄	M28 橋本健治	M36 西村 功	
機械電気科	M42 前田範行	M42 山口忠雄		
6名	清水一三雄 先生			
建築科	A25 西阪 勲	A27 清井英治	A28 岡田宏三	A28 酒井 保
普通科	A37 越田 勝	A37 森 芳信	A38 岩井浩一	A44 水守恵子
9名	A57 信原利行			
電気科	E18/9 平野榮一	E20 眞鍋静夫	E28 有井 章	E29 川村栄男
13名	E29 小林孝栄	E35 田中 浩	E35 芳仲 宏	E36 赤尾仁史
	E36 笹治博司	E36 竹村繁幸	E36 馬江治喜	E37 岡本義輝
	E44 亀田光郎			
土木科	C18/9 大倉 馨	C18 秋月勝美	C18 北里直行	C20 榎本嘉信
8名	C20 吉田正次郎	C24 土谷 覺	C33 明見和彦	C33 松本信行
工業化学科	C132 松井駒治	C134 柴田孝次	C139 馬場義甫	
5名	C139 藤田 忠	C140 菅家互通		
	41名+来賓2名	合計43名	でした	

## 母校空襲罹災の記



M21 金田 龍之介

(昭和二十年六月七日)  
「四十四年目の役者」より抄録

M21大前号からの続き

休みの日に、監督に來ている先輩達が、中ノ島公園に下級生有志を召集した、伝馬船の漕ぎ方を訓練してくれるのである。ボートしかなかった中ノ島公園に、その頃になると伝馬船が舫っていた。ボート屋も、ボートなどという敵性用語で呼ぶ小船では商売がしにくくなったのか、それとも竹槍訓練と同じ発想で、伝馬船に乗って、どこかへ敵前上陸でもするつもりで、そのための訓練とでも言うのか、伝馬船を漕ぐことが流行った。先輩の上田陽一郎氏やその他の人達のいでたちといえば、襟なしの白シャツを腕まくりし、作業ズボンに白ゲートルを巻き、腰に手ぬぐいをさげ、たいてい藁草履をはいてズボンはバンドのかわりに忝連衣の黒帯を締めていた。帽子は自分達が入学した上級学校の学生帽をかぶっていた。このスタイルは丸帽の方が、どちらかといえばよく似合った。中には横笛を一管、黒帯にさしている人もいた。伝馬船で堂島川の中ほどまで出て、やおら横笛を取り出し、静かに白頭山節を吹奏したりして、同乗の後輩たちに聞かせてくれた。櫓を漕ぐ手を止め、川の流れのままに、空襲のない七月の、夏の青空の陽を浴びて、船をゆくり流し、白頭山節や、追分節や、ダンチヨネ節を、川面に向かって、大きな声で、高調子に歌っていると、いい気持ちになった。みんなお互い学校は焼かれ、家は焼かれ、本土決戦はせまり、なにやらサラッとした死生観を作ってしまったから、白鉢巻でもして暮らしたいような気持ちがあった。勤労働員先でも女学生と話をすることなど、自分の気持ちの中で、恥ずべき事とされていた。

俳優 金田 龍之介氏(M21年)のホームページのURLです！

www.geocities.jp/kinryu\_doozi/

女学生の方でも、そういう一種独特の壮士風に、気取った中学生達を遠まきにして、畏敬の念をこめて見ていたに違いなかった。(これは、こっちの一人合点かも知れぬ)また、そんな風な取り方をする人に美男子が多かった。工場の工具室に、ハンマーの柄や、ヤスリを取り替えに行つて、一言、二言言葉をかわずだけでも、ずいぶん工具係の女学生を意識した。工場からの帰り道、私たちは表門を出た所で、解散したが、境川女子商業の女学生達は、四列縦隊に隊伍を組んで電車道まで歩いて行った。そして、

南から、南から、飛んで来た渡り鳥

嬉しそに楽しそに、富士のお山を眺めてる……とコーラスしながら、脇眼もふらず、さつさと行進して行った。私は夕暮れの町に立つて、あつきれいなあ、と思わず見送ってしまった。そして、そのあとなぜか涙ぐんでしまった。キューンと音の立つような、悲しみとも、寂しさとも

一緒にはなれない、それは不思議な哀歎であった。一緒にいた級友の水晶正美君と二人で、がらんとした人気のない今宮戎神社まで行った。水晶君は、その日工場で配給のあった水飴の瓶詰を社前に供えて、どつかとあぐらをかいで座り込み、両手をおもいきりひらいて、拍手を打ち、「海兵に合格させてください」と大きな声で、たのみこんでから、へっつと私の方を見て笑った。

※海兵…海軍兵学校

わりかた惨めな気持ちになったのは、軍関係や高等商船学校(将来海軍士官になれる)に入学した先輩達が、学校や動員先に激励に現れて一席、演説を打たれる時であった。彼らはさつそうとして「諸士よ！」などと力あふれる、青年の意気を示されるのであるが、後でゲンナリしていけなかった。こちらは、十六、七歳の中学生の集団であるし、三角函敷や、代数の本を持ちたり、英語の参考書を抱えたりしていたが、勉強するという気分は下火になっているよう

あつた。眼が良くて、体が丈夫で、勉強に励んだ奴は、もうみんな海兵予科生徒などを受験して居なくなっていた。私達のクラスからも、水あめを備えてエビスさんに祈った水晶正美、級長の秋田峯一、もう一人、雲宮政次が、海兵予科生徒に合格して行つてしまった。上級生が、満州へ行つたり、軍関係の出征をしたりする時には、大阪駅で陣を組んで激励会を開いたが、とうとう自分たちのクラスからも征く友が出たのかと私は思った。学校へ行つて、機械科の、白地に赤で大きくMと染めぬかれた応援旗を借りて来た。

## 三

私は近眼であるから受験できないものと諦めていたが、陸軍経理学校と海軍経理学校は視力0.3まで受験できるという。合格する自信はひとつもなかったが「まあええ、受けてみられ」と、願書を取りに大阪城内にある師団司令部へ行つた。そして、そこで願書を作成し、それを持って南海電車に乗って、帝塚山学院に行つた。初めて帝塚山学院に入つて行つたのであったが、そこで(願書受付の窓口があった。臨時の出張所になっていた)のであろう)手続きを済ませて、合格するあても無いのに、もう陸軍経理学校生徒みたいに緊張して、通用門を出て来た。陸経の身体検査を受けよと通知が来たので知覧良昭も一緒に行つた。借行社であった。白い前掛けのような、禪一本で整列して検査を受けた。検査表を封筒に丸めて持つていて、下士官に叱られた。「まいてはいかん！」と怖い顔をしてにらみつけた。不合格であったが、これが二十五年もたつてから役に立った。NHKのテレビドラマ「流れ雲」で主人公松風軒鳳凰が、徴兵検査を受ける場面になつた。

二十年六月二十九日の深夜、岡山に大空襲があつた。近所の人は、大変あわてたらしいが、父

は大阪での経験を生かして、屋根に上がって火たたき棒で降りかかる火の粉を払って奮戦した。岡山市内から一里近くはなれ、直接の猛烈な空襲ではなかったので助かったが、岡山城も焼け落ち、私が大阪から、かついで来たミシンの頭も、市内のミシン屋に修理に出してあつたのが、空襲に二度もあつて、とけてしまった。

級友の由良玉太郎君と入谷健君が予科練に入隊することになった。その出発の日も近づいて来た頃、由良君のご両親が知覧良昭と私を、家へ下宿させてくださる事になった。由良君は一人息子で、由良君が征つてしまつて夫婦だけになつてしまつたので、家へ来るように言ってくださつたのだ。由良君の家は、今市という所の高倉町という町から五軒くらいしか離れていなかった。由良君の家へ行つてみて驚いたのが、一人息子というものは、ご両親が王子様のようにかわいがつていて彼を見て、へエーと思つた。その玉太郎君が予科練に征つてしまうのだから、さぞかし、つらい思いをなさつた事であろう。朝も一緒に食事して、由良君はサラッサラッとすませてしまふ。私と知覧はゆっくり食べている。お父さんは息子の顔をチラッと見て「玉、もう一ぱいどや」という、由良君は怒つたような声で「いらん」と短く言う。「一緒に」行つて来ます」と家を出て、ひとつ辻を曲がった辺りで、やつと由良君はいつもの、私達仲間の間で見せるニコニコ顔に戻つて、はしゃいだりして道を歩いた。彼と入谷君が発する夜、大阪駅まで送つて行つて、陣を作つて応援歌を歌い、三三七拍子をうたつたりして彼らを激励したが、この夜は大変な人数で、大阪駅東口の広場は、ドドドという地鳴りと、ウォンウォンという、うなり声に満ちていた。どれだけの中学生が予科練に入隊したのか、それは真つ暗な中で、巨大な渦巻きであった。そして東口の方へ入つてく所に木の棚が作られていて、喧ましい怒鳴り

2面より

声を上げて、憲兵が走り回っていた。由良も入谷も、その木の柵の中へ入って行くと、もうお別れなのだ。どんどん勢いをつけ、笑い顔を浮かべてその中へみんなすべり込んで行く。由良も入谷も、敬礼して、その中へ今入って行くこととしている。「行ってきます!」、「頑張れ!」、「しつかりやれよ!」やがて彼らは木の柵の中へと走って行った。おぼさん、「こつちこつち!」とお母さんの手を引いて柵の間からのぞいた。裸電球の明かりの下で、由良玉太郎君の顔が蒼白くチラツと見えて、大勢の中にまぎれて階段の方へ消えた。入隊すると大勢の学生たちと見送りの大群衆は、渦を巻いて熱気で地響きを上げながら、移動して行った。

### 千葉の温泉

CI 40 菅家 巨通



千葉には温泉が無い。山がない。川がない。船橋に移り住んで十八年、周辺からきこえてくる地元評に当初はそう思っていた。振り返れば、富士山に登り、槍穂を縦走し、六甲を歩き回った若い時代から見れば、山がないのは寂しかったが、都島を出て転々として居る間に、結婚をし、子供も出来て生活ベースが変化していき、遠い昔のことになってしまった。最近職をリタイアしたが、勤務地は都内であったので、寝るために戻るだけだった千葉にも、色々あるよと新しい発見を楽しんでいるこの頃である。

山はあった。一番高い山、海拔329mの鋸山である。東京湾フェリーの発着地、浜金谷の先に背は低い。ロープウェイを備えた、見所の多い山である。川は、江戸川と利根川にはさまれ、夫々東京・茨城と県境をなしているが、地名に市川とか鴨川とかがある位だから、それこ

そ小さい川がいっぱいある。大きな沼に恵まれた農業県である。

さて温泉は?これも無い訳ではないが、全国の名湯秘湯について登場してこないのが、他県に出張する羽目になっていた。所が最近、地元のケーブルTVで放映され、人気の温泉があるというので、この原稿を書く目的で訪ねてみた。それにしても前置きが長いのでは無いかと思われするのは、実はたまたま行った日が、月に2度の休館日であったためネタにならなかったのである。名前は七里川温泉。房総半島の養老清澄ライン沿いにあり、亀山湖にそぐく七里溪谷の上流で紅葉のきれいな所であるが、途中車がすれ違えない狭路が続く、大方の行楽客は並行する鴨川有料道路を通るので、地図にも詳しく載っていない。入浴は出来なかったが、千葉では珍しい硫酸泉で飲用も可。玄関前の源泉を飲んでみたら冷たかった。(15.7℃) 現温泉法では、総硫酸、その他の成分が適合していれば温泉と称せられるらしいが、以前は鉱泉と言っていた類の泉種だと思ふ。駐車場でウロウロしていると、やはり休みを知らないらしい2人連れのおぼさんがやって来て引き返していった。悔しいので、もう少し上流へ向い、ほぼ同等泉質の白岩温泉というのを見つけ、その露天風呂に入ってきた。日帰り入浴500円、NHKの小さな旅とか最近では氷川きよしが来たという話で、チラシに房総の秘湯と書いてあったので一応満足して帰路についていた。

蛇足ながら、房総というのは、安房、上総、下総の三国を言い、古代、天富命が阿波彥部を率い東国に赴き麻を栽培させた。このとき良質の麻が成長したところを総(ふさ)麻の古語の国といひ、阿波彥部が居住した所を安房と名付けたとされている。後に都(安房)に近い所を上つ総、遠い所を下つ総というようになったので、現在の位置から考えると上下が逆の様に思える理由も解ってくる。

### 納涼屋形船に参加して

A57 西井 久人

東京に赴任して3年目の夏、普段目にする街の風景のなかに気になるものを見つけました。東京湾に浮かぶ屋形船です。一度乗ってみたいという思いが通じたのか、関東浪速工業会の行事である屋形船に初参加することが出来ました。8月9日の夕刻、まだまだ残暑厳しい18時過ぎ、出航と同時に乾杯が始まり、懐かしい昔話に揚げたての天ぷらに舌鼓。窓の外は夕ぐれ迫る美しい景観やがてライトアップされたレインボーブリッジに華やかなお台場の夜景に見とれながら、時折吹く心地よい海風に揺られ目の前に展開する東京の町並みにうっとり。大昔から東京湾の景色を屋形船は見てきたと思うと何か歴史的ロマンを感じずにはいられません。普段決して見る事のない水面からの景観とりわけ見事な夜景にうっとりしながら、懐かしいカラオケに乗せた歌声が軽やかに心に響き、気がつくとな船の回りは盛り上がる屋形船で一杯。楽しい時間は早く過ぎるもので名残惜しい気持ちを感じながら21時前に無事帰港。満足感で一杯の屋形船初体験乗船でした。

貴重な時間を過ごさせていただきました大先輩の皆様、機会を頂きましたこと感謝申し上げます。最後にお世話になりました幹事様、本当にお疲れ様でした。



2007.8.9 屋形船にて

参加者(20名)  
A28酒井、A38岩井、A57西井、A57信原、C18/9大倉、C18秋月、C20榎本、C24土谷、C33松本、C33明見、C137五十嵐、C140菅家、E35田中、E36笹治、E36石塚、E36馬江、E41大髭、M26上田、M36西村、M41前田



### 青薔会活動報告(陶芸会)

A57 信原 利行

平成19年9月29日(土)青薔会恒例のイベントである陶芸会を、陶芸家として活躍中のA46卒・柚木寿雄氏の国立自遊工房にて行いました。他科からも3名のご参加をいただき、合計9名で午後1時から5時まで皆で陶芸に没頭することが出来ました。陶芸終了後は、国立駅前の居酒屋和民にて自遊工房のマリ先生を迎え懇親会を行いました。作品は工房で施釉焼成され、12月に再度集合し品評会を行う予定です。関東青薔会では、このほかに11月に「紅葉の箱根建築探訪」と称した日帰り小旅行を行う予定です。



2007.9.29 陶芸会

参加者(9名)  
専M25曾原、E36馬江、C140菅家、A28酒井、A28森田、A37森、A38岩井、A57西井、A57信原



### MニュースのEメールでの受信にご協力を

Eメールで受信して頂きますと記事中の写真がカラーで御覧になれます。(A4サイズ4頁で約1.6MB程度のデータ量となります)

経費節減(A4サイズ4頁のプリント代、送料)と發送事務省力化のためパソコンメールアドレス(携帯は不可)をお持ちの方、御協力よろしく御願致します。御協力頂けます方は、左記事務局宛メールアドレスをお知らせ下さい。事務局メールアドレス  
umae2@m3.dion.ne.jp

# シルク・ロード 天山北路を往く(第3回)

A27 田中 瑛也



シルク・ロード



## ●シルク・ロードの自然

天池(写真1) 人々はシルク・ロードの名によって抱くイメージは、乾燥した砂漠に築かれた道路、このイメージはまさに当を得ているが、その思いが覆された景観をシルク・ロードの本道から外れているとはいえず、目にした新疆省ウイグル自治区の省都ウルムチは、中国内陸部の都市として高層ビルが立ち並び、活況を呈している。その因は石油産出に伴う経済効果によることは多大である。そのウルムチから北東に約90km、天山山脈の支脈ボゴダ峰の中腹標高980mに位置する天池、平地からバスと電気カートを乗り継いで、湖に辿り着く。湖は針葉樹に覆われた山々に囲まれ、古代王朝の伝説、南方のコンロン山に住む西王母と周の穆王との会見した由緒ある場として知られる。湖畔で鮮やかな民族衣装をまとった少年の姿が心に遺る。



写真1(天池)



写真2(アイディン湖)

アイディン湖(写真2) 同じ湖でも、天池とは赴きを全く異にする湖である。トルファンからウルムチへ沙漠道路を走ると、茶褐色の沙漠の平面に陽光を受けてきらりと光る水面が視界に入る。中国人はこの湖を月光湖と名付け、単調な沙漠行路にめりはりを付ける意味で休憩場所として一観光名所として湖の名を広めている。イスラエルの死海に次いで、世界2位の低地にある塩湖、湖辺は塩の結晶が乾燥して干上がり、白雪を踏む思いで湖辺を歩く。湖水をなめるとなるほど塩辛い。



写真3(火焰山)

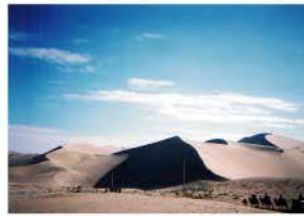


写真4(鳴沙山)

火焰山(写真3) 塩の湖にほど近い町トルファン、天山北路と天山南路が交叉する盆地にあるこの町の中央部に座する火焰山は、851mの高さの山で地殻の変動でひだの入った赤い山は、火が燃えている様に見えるので人は火焰山と呼ぶ。玄奘法師の登場する「西遊記」で火焰山で先を遮られるが、孫悟空が大活躍をして鉄扇公主から芭蕉扇を奪い、火を消したと話題を提供した山、山の長さ、100kmの全体像を写真機は捉えきれない。しかし山肌の色彩と山の形相には全く異様な感を受けた。

鳴沙山・月牙泉(写真4) 敦煌の南の外れ、東西40km、南北20kmの一区画は、周辺の沙漠と呼ぶよりは、土漠に相応しい荒地と異なり細砂によって形成された山が存在する。このような景観が存在するのは、土地を造った神の計らいかどうかは知らないが、シルク・ロードの西端に近い中部トルコのパムツカレに

存在する一区画は、白い石灰の景観を呈し東西相対して観光客の眼を惹きつけている。鳴沙山の名は砂山を人が歩くと音がする。砂の粒子が外部から圧力がかかると、砂が擦り合う際に音が出る。日本でも日本海沿岸の各地に泣き砂の名所は取り上げられ、歌にも「女泣き砂 日本海」と歌われている。

鳴沙山と対で紹介されている月牙泉は、月を映す泉の水は干上がり、泉のほとりに建つ小さな楼閣も鳴沙山の砂の埋没されるかの風情で、泉面に水をたたえ、月満ち夜当地を訪れば、幻想的な風景との出会いがあるのだらうと、思いつつ駱駝の背に揺られて鳴沙山に別れを告げる。

## ●シルク・ロードに暮らす人々

ウイグル族(写真5) 中国の人口は、約13億人といわれる。この人口の92%は漢族が占め、8%が55の少数民族で構成されているが、中国の領土で西北部の一隅の地を占めるシルク・ロード、新疆ウイグル自治区は少数民族とグループ分けされた中で、ウイグル族が800万人の人達が、生を営んでいる。この民族の祖はB.C.3世紀当時は遊牧民で暮らし、その後裔は8世紀にはモンゴル・ハン国を築き、周辺諸国に対して強勢を振るったが、キルギス国に追われ、現在に到った。ウイグル人の生活する一軒の葡萄栽培で生計を立てている農家を訪れる。コンクリートの土間に色彩鮮やかな絨毯を敷き、居住就寝の場として、来客は中庭におかれた簡素なテーブルでもてなす。招いた客に裏の葡萄園からもぎとった葡萄を皿に盛り、お茶などを勧める。

家の構えも中国というより、イランの家の構えに近い。彼等の日常語はウイグル語であり、中国語を話せる人は少なく、今日日本人の観光客が多く訪れるので、「どうぞ」「有り難う」などの日本語なら話せる。中国の中の異文化の国、イスラム教を信仰し固有の文化を持つウイグル民族が今後どのように民族の伝

統を維持するのか。中国政府の進める民族同化政策との和合をどのようにとるのか。ここに多民族国家中国の抱える大きな問題を見る。

カザフ族(写真6) 観光地である天池にほど近くに居住するカザフ人の住まいを訪れる。新疆ウイグル自治区に居住する少数民族でウイグル人について多い民族である。人口約110万人、トルコ系遊牧民で今日でも春から夏は草原を馬や羊を追って遊牧生活、冬は定住生活で暮らす。その住まいは、ゲルと呼ばれるフェルト製のテント、骨組みはパイプでの組み立て式、円形の平面で、屋根は円錐形の小屋、室内面の壁面は住居とは考えられないどぎつい色彩で描かれた動物画など、一部屋に家族が雑魚寝をする。この点では、定住生活に入り、居住目的を確立した部屋を持ち、葡萄栽培などで生を営むウイグル人の方がより近代的な生活様式を持つ。中国に暮らす少数民族と一言で表現出来ず、様々な多様性に富んでいるライフスタイルの一端を見た。



写真5(ウイグル族の住居)



写真6(カザフ族のゲル)

## 訃報

M27 神鳥 章氏  
平成19年2月4日

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

次号の  
Mニュースは平成20年5月  
発行予定です

原稿随時募集中!  
事務局まで  
送ってください!